
finish

犬猫芝居

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

f i n i s h

【コード】

N 4 9 0 9 M

【作者名】

犬猫芝居

【あらすじ】

とある革命の終わりを一人の特殊部隊員が余韻にしたってぼつっと思いついている。そんな作品。

part 1

正義を掲げた革命は終わりを告げようとしていた。

ヘリの中から下の惨状を見下ろす。

かつて経済を担っていたビル群は砲撃と空爆、地上部隊の血みどろな接近戦で崩壊、炎上している。無数に煙が上がり、その中を通るたびにテイルローターが煙を巻き上げる。

無数の部隊が瓦礫の合間を行進している。ここらは既に制圧しているようだ。

小銃に取り付けたスコープ越しに光景を眺める。後続の部隊では着剣した小銃で原形を留めている死体を突いていた。延々と続く生死判断作業。

一人、死体に隠れていた生き残りが飛び出した。全身黒く汚れて見えた。突然だった。

反射的に一個分隊分の銃撃がおこる。止まれ、もなしに。突然で警告という概念がなかったのかな。それとも
「逃げたから、撃った。」
だけかな。

過ぎ去る瞬間、詰め寄る集団の隙間から死体が見えた。他人の血と自分の血で黒く汚れていた。

part 2

僕達は革命政権首都の制圧にかかっていた。

5年前に起こった「平等による革命」は終わりを告げようとしていた。

彼らは簡単に折れた。乾燥した木の枝のように。簡単に。

5年間という戦争は彼らには長すぎたようだ。

一時、2年前までは僕達はこの国の領土の端まで追いつめられていた。山岳地帯に逃れた僕達はそこで抵抗、国の体を守っていた。

彼らは余裕だった。山に閉じこもった俺達を10倍以上の戦力で包囲していた。

勝利までは時間の問題とみた彼らは新たな政府を作りし、新たに首都を造った。

彼らは自分達の「絶対正義」を「平等の国」の憲法にした。

part 3

色々な物が焦げる匂いが空気の中を漂う。

それは破壊された建築物や装甲車の鉄屑などの無機物が焦げる匂いであり、有機物、とくに死体等の蛋白質が焦げる匂いであった。

官邸へと続く大通りへと出る。

そこでは我が軍の機甲戦闘団の戦車が、歩兵戦闘車が、それに追従する歩兵が官邸への道を守る急造の塹壕にこもった敵残存兵力を、その圧倒的な戦力で無慈悲なまでに殲滅していき、装甲車が浅い塹壕を死体ごと踏み潰して渡っていく。

対空砲火は無きに等しかった。

その代わりに沢山あった。

ヘリの両脇にいる機付長が備え付けのドアガンで必死に前方の戦車から逃げる敵兵の背中を撃った。隣にいた相棒も自前の小銃で発砲している。前後にいる輸送ヘリも撃っていた。

もちろん僕も、だ。

本来これらは無用なことである筈だ。

任務とは関係ないことだ。僕達はこの革命の首脳を捕まえようとしている。そのために今撃つ理由はない。

でも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4909m/>

finish

2010年10月9日02時06分発行